

## 情報ということ

金沢大学学長 青野 茂行

新聞のコラムの類には時として面白いものがある。マーシャルプランといえば、戦後のヨーロッパの復興に大きく役立ったアメリカの援助計画である。アジアでは残念ながら失敗した。今、日本にはこの新版が求められている。ところで、この計画をマーシャル将軍が発表したのは、ノートルダム大学の卒業式に招かれた時であった。すると、その晩のうちにある宴会の席上で、イギリスのイーデン首相が歓迎の演説をしている。両国間の時差を考えると、まことに間髪を入れずと云わざるを得ない。これを紹介したコラムニストは、外交とはかくあるべしと云いたかったのであろうし、私はまた、情報とはかくあるべしと云いたい。

世は情報時代といい、世の中に情報は奔流となっている。然し、theoryをもたぬものにとっては、それらはただ頭の上を通りすぎてゆくに過ぎない。theoryは”理論”と訳されるが、この語の意味は”考え”とか”着想”とかにより近い。ある事件について自分なりの考えをもっておく。すると様々な情報があつまってきて、自分の考えを裏づけてくれたり、修正してくれたりする。近頃のこととしては竹下内閣成立の事情が面白い。中曽根裁定というのがあって、それを見て宮沢は無然としたという。その時金丸が云ったことは、”願をかけても仕方がないものに願をかけた、ということだ。”theoryをもたぬものに情報はあつまらないという例になるだろう。

私は来春停年の予定であった。その一つの意味は、スタッフや学生を失うということである。そこで新しい仕事の仲間としてEWS(Engineering Work Station)を選ぶことにした。業者に出した注文はREDUCEとFORTRANが高いレベルで実行できること。私はこれら全体を一年間でマスターしようと思った。現にいま私の目の前ではEWSが2時間余りの長時間ジョブを実行中である。その後私の事情はすこし変わった。然し本質的には変わっていない。情報とはより具体的に、FORTRANではSUBROUTINE, REDUCEではPROCEDUREとよばれている。前者には優れたSSL(Scientific Subroutine Library)の如きものがあるが、後者には相当するものがない。数学を日常の言語として生活するものが稀であることがその理由であろう。そこで私は情報の構築にとりかかった。すなわち私がこれまでにつくった数理的な体系やそれに関連する数学的な手続きをPROCEDUREとして書き換えていったのである。そしてたちまち種がつきてしまった。一枚のフロッピーに収めて、まだその大半は余白なのである。なんと私の情報はプアーであることか。

近頃読んだ本に、計算機は創造的な能力がないという意味で、”本質的にバカである”と書いてあった。優秀な学生とは、豊富な情報をもっていて、そのIOが早くて正確なもののことであるから、共通一次は”本質的なバカ”をつくるのに大きく役立っているのだそうである。こういう議論を気分

よくあまり続けてはいけない。それよりも、目の前のプログラムのなかの虫を探して、なんとか結果を求めることに、私は過去の時間の大半をつかってしまったし、これからもそうにちがいないと確信している。